

特別養護老人ホームが開所します！

4月9日、特別養護老人ホーム「マイルドハート高円寺」(高円寺北1-28-1)で増築部分の竣工式が催されました。杉並区では、平成26年3月時点で特別養護老人ホームへの入所希望者が約2千人にのぼり、その約半数は、入所の必要性が高い方となっています。今後も入所希望者は、増加することが予想されるため、区は、平成24年度からの10か年で、定員1,000人を新たに確保することを目標に整備を進めています。

マイルドハート高円寺は、旧警察学校跡地を社会福祉法人が譲り受け、平成21年度に130人規模の特養施設として運営してきましたが、さらに隣接する区有地を活用して51人分を整備し5月から開所します。

厚生労働省の発表によると、特別養護老人ホームへの入所を待つ、いわゆる特養待機者は全国で52万人となっています。待機者の解消は、杉並区でも、保育所と並ぶ、喫緊の課題として取り組んでいます。



杉並区では、高齢者の方々が住み慣れた地域の中で安心して暮らせることを目指し、地域包括ケアの推進や介護施設の整備を進めています。高齢者の増加は、今後一層進むとともに要介護高齢者の増加も

予想されています。そのため、区は、特別養護老人ホームの確保定員数を、平成22年度末1,307人から、平成33年度までに、1,000人増やし、2,307人とする計画を立てました。平成25年5月に70人規模の施設が開所し、現在の確保定員数は1,377人となりましたが、平成26年3月現在で、1,970人の入所希望者がいる状況となっています。

区内特別養護老人ホーム整備数

年度	22年度	25年度	26年度	33年度
整備数	1,307床	1,377床	1,538床	2,307床(目標)

本日午前11時、マイルドハート高円寺には、杉並区長をはじめ関係者70名ほどが参加して、竣工式が執り行われました。マイルドハート高円寺は、警察学校のあった広大な土地の一部を社会福祉法人が譲り受け、整備費の助成を受けて施設整備を行い、平成21年から130人の施設として運営してきましたが、区からの要請で、隣接する区有地を活用し、さらに51人分を増築することとなりました。田中良杉並区長は、「特養の安定した運営には80人程度の規模が必要で、3,000~4,000㎡の用地が必要となってくるため、区内整備とともに、広域の連携により整備するなど多様な手法により進めていきたい。また、用地の確保とともに、施設を運営する事業者や人材の養成が必要であると認識している。」とあいさつしました。

平成26年4月・5月には、マイルドハート高円寺(51人)をはじめ、和泉サナホーム(60人)、愛敬苑(50人)の3か所161人の特養を確保しました。今後も、区は、区複合施設・あんさんぶる荻窪との財産交換による荻窪税務署等用地、旧永福南小学校の活用や区立施設の再編整備により生み出された施設・用地を活用するとともに、自治体間連携による新たな施設整備の検討や国や東京都とも連携して高齢者施設の整備を推進していきます。